



鉄道廃線跡地(長野電鉄屋代線)を活用した自転車歩行者専用道の整備について

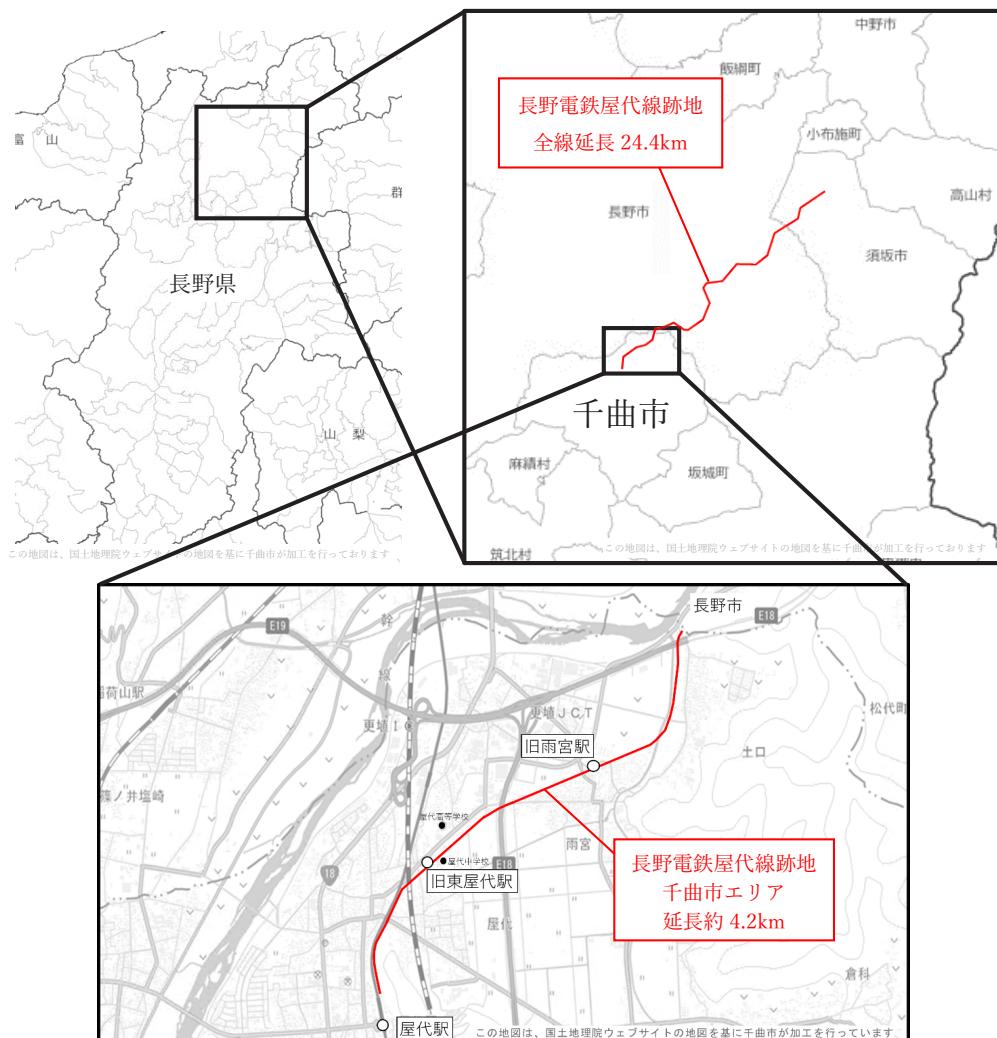
長野県千曲市 建設部 道路河川課 建設係

○はじめに

旧長野電鉄屋代線は大正11年に河東鉄道河東線の一部として開業し、屋代駅（千曲市）から松代駅（長野市）などを経て須坂駅（須坂市）までの千曲川の東岸の都市を結ぶ歴史ある鉄道路線でした。

沿線で栄えた繊維産業を支える物流や通学需要等を担いましたが、平成24年4月に廃線となり、平成25年12月に長野電鉄(株)から本市を含む沿線自治体(千曲市、長野市、須坂市)へ一括無償譲渡されました。本市へは延長約4.2kmが譲渡されています。

譲渡を受けた跡地の利活用方針については、平成24年12月に策定した「長野電鉄屋代線跡地活用基本構想」においてジョギング＆サイクリングロードとして活用する方向を定めるとともに、令和2年3月に策定した「千曲市自転車活用推進計画」においても同線跡地を自転車ネットワーク路線に位置付けています。これら計画に基づき、令和3年度に国の交付金等を活用した整備事業に着手しました。



【長野電鉄屋代線廃線跡地（整備前の状況）】



旧東屋代駅跡地



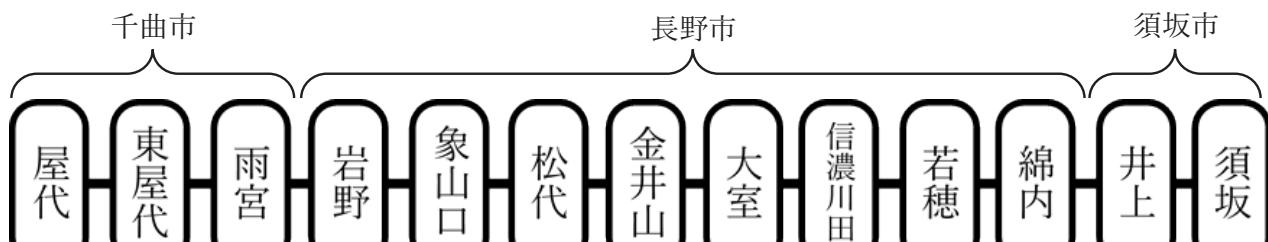
旧雨宮駅跡地



旧東屋代駅～旧雨宮駅間から旧雨宮駅方向を望む



旧雨宮駅～旧岩野駅（長野市）間から旧岩野駅方向を望む



廃線直前の長野電鉄屋代線の路線図

○事業の概要・進捗

本事業は譲渡された延長約4.2kmの廃線敷の内、約2.4kmについて幅員4.0～6.0mの自転車歩行者専用道として整備するとともに、駅跡地を休憩施設等として整備するものです。

自転車歩行者専用道の具体的な整備形態については地元や学校関係者等の委員からなる「長野電鉄屋代線跡地整備検討会議」を設立し、協議決定しています。

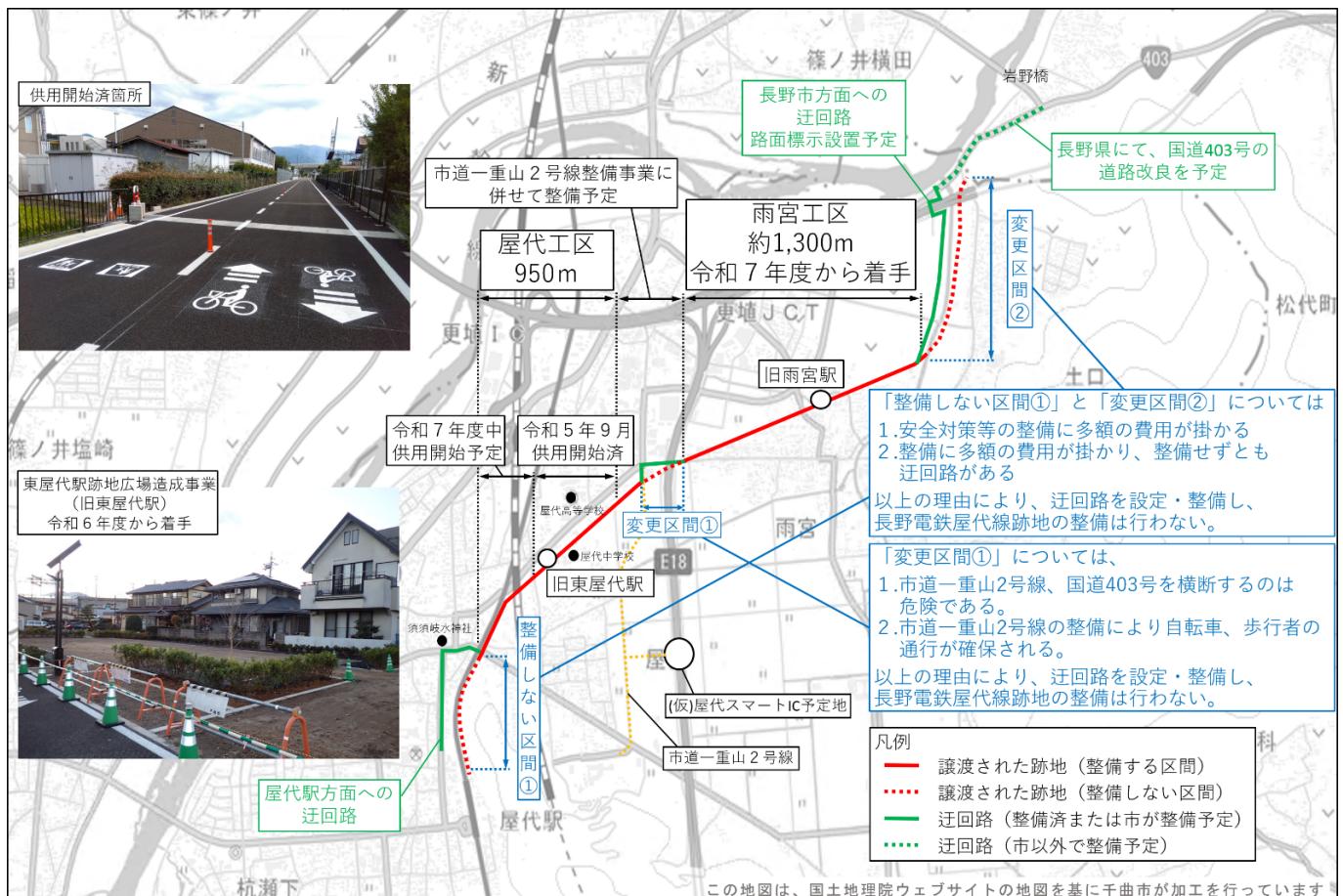
跡地南西側の屋代工区（L=950m）は令和4年度に工事に着手し、本年度中に完成、供用開始予定です。

跡地北東側の雨宮工区（L=1,300m）は本年度、測量設計に着手しました。

なお本市では費用面や安全面を考慮し、整備が困難かつ迂回路を設定できる区間については整備を行わない方針としています。

駅跡地については土地の有効活用を図るため、主に地元との協議により整備形態を決定することとしています。「旧東屋代駅跡地」は広場として整備をすることが決まり、令和6年度から工事に着手しており、「旧雨宮駅跡地」は現在地元協議を進めているところです。

令和7年7月時点での整備状況及び今後の計画



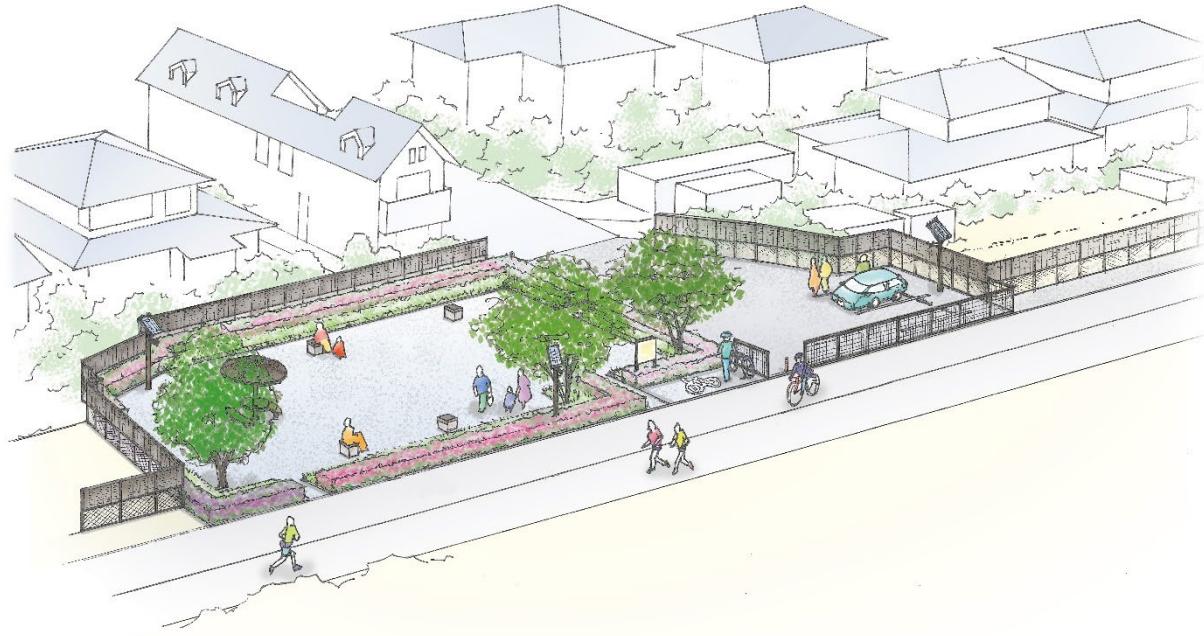
千曲市屋代地区の状況



整備済み区間



整備中区間



旧東屋代駅跡地の整備イメージ

○期待される機能

① 散策路やアクセス道路

当該道路は信号がなく、平坦な勾配で直線的であるため、近年の健康志向やゼロカーボンといった時代背景も追い風となり、散策路（ウォーキングコース）や自転車道としての利活用が期待されます。

② 通学路・通勤路としての利用

小学校の通学路としての利用、中学生や長野市方面との高校生の通学の往来など、通学路・通勤路としての利用が期待されます。

またこれらの機能については道路設計にも反映させています。ゼロカーボンに対しては道路照明にLEDソーラーを採用しており、通学路に対しては安全面に配慮し、交差点に車止めやカラー舗装を配置し注意喚起を行うことや歩行者と自転車の通行空間を分離するため、白線やラバーポール、ピクトグラムを設置しています。

○おわりに

現在工事中の屋代工区が完成すると小学生の通学路として活用されることが予定されており、今後も整備が進むことで利便性が向上し、より多くの方に利用していただけることが期待されます。

測量設計に着手している雨宮工区については主に費用面や維持管理面（防草対策）の課題を中心に関係団体や地元と検討しており関係団体や地元と、早期の供用開始を目指し進めています。